

(法第10条第1項第7号)

2019年度の事業計画書

NPO 法人犬と猫のためのライフポート

1 事業実施の方針

①の事業では、犬猫合計1,000頭以上を引き取り保護することを目標とする。前年度に引き続き、これを実現するために人員の確保および施設増改築を実施する。

②の事業では、犬猫合計1,000頭を新しい飼い主に譲渡することを目標とする。また今後一層増えるであろう、譲渡が困難な成犬や成猫の対策を強化するため、成犬100頭と成猫50頭の譲渡を目標とする。

なお、飼育管理能力の指標として、譲渡までの犬の滞在日数30日以下、死亡率5%以下、猫の滞在日数60日以下、死亡率10%以下を目標とする。

③の事業では、従前から発信していた情報の見直しを行い、時代に即した情報を届けることを目標とする。

④の事業では、①で保護した動物のほか、100件の外来不妊手術実施を目標とする。

⑤の事業では、従前のおりより良い情報発信を目標とする。

⑥の事業では、新規事業を立ち上げるための準備を行う。

⑦の事業においては、単に収益をあげるのではなく、事業を通して飼い主と動物にとってより良い生活の助けとなる保険代理業を実施する。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施予定日時	実施予定場所	従事者の予定人数	受益対象者の範囲及び予定人数
①行政施設で殺処分される犬猫を引き取り保護・飼育する施設(アニマルシェルター)を運営する事業	保健所や愛護センターなどの行政施設で殺処分直前の犬猫を施設に保護して、譲渡のための健康管理やしつけ等を行う。 また、譲渡が困難な犬猫については、施設で生涯飼育する。	随時	法人事務所	12名	千葉県、茨城県、福井県、静岡県、山梨県、船橋市、柏市の7自治体。

②行政施設から引き取った犬猫に不妊手術を施し、新しい飼育者へ譲渡する事業	前記事業で保護した犬猫たちに不妊手術を施し、新しい飼い主に譲渡する。	随時	全国	10名	・犬猫の飼育を希望する不特定多数
③幼齢避妊去勢手術の普及と犬猫の適正な飼育を啓発する事業	団体ホームページで幼齢不妊手術についての情報提供や啓発を行う。	随時	法人事務所	2名	不特定多数
④幼齢避妊去勢手術を主たる目的とした動物病院事業	団体が保護中の犬猫の不妊手術および、保護団体や個人が保護する犬猫を対象に、幼齢不妊手術外来を提供する動物病院を運営する。	随時	法人事務所附属の動物病院	5名	・犬猫を保護する団体や個人。 ・100件の外来不妊手術実施を目標とする。
⑤この法人の特定非営利活動に係る事業に関する情報提供・サービス事業	主にインターネットを通じて、前記事業すべてに対する情報発信を行う。	随時	法人事務所	3名	不特定多数
⑥その他この法人の目的の達成のために必要な事業	新規事業を模索し、開拓し、立ち上げるために必要な調査・研究・準備等を行う。	随時	全国	1名	不特定多数

(2) その他の事業

事業名	事業内容	実施予定日時	実施予定場所	従事者の予定人数
⑦損害保険代理業	事業を通して飼い主と動物にとってより良い生活の助けとなる保険代理業を実施する。	随時	法人事務所	2名

以上

2019年5月19日

NPO 法人犬と猫のためのライフポート
2019年度 事業計画書

<この事業計画書について>

この文書は、当団体を応援して下さる皆様によりわかりやすいメッセージをお届けするために、行政機関に提出する書式とは別に作成しているものです。

<犬と猫の保護と譲渡について>

本年度は犬猫合計 1,000 頭を最低ラインの譲渡目標とします。
またそのうち成犬 100 頭、成猫 50 頭の譲渡も目標とします。

当団体はこれまで子犬子猫を中心に沢山の犬猫を保護して、一日でも早く新しい飼い主さんを探すことで救命数にこだわる活動を行って参りました。そしてそれはこれからも変わりません。

しかし近年、譲渡が困難な犬や猫を保護する機会が増え続けています。その理由は後述しますが、いずれにしてもこうした犬猫たちを譲渡するためには一頭一頭に相当の時間をかけることが必要です。また施設の物理的な制約もあることから対策が急務となっています。

単年度の譲渡目標としてはこれまでを下回るものとなりますが、代わりに成犬・成猫の目標をチャレンジなものとししました。後述の他の計画と併せてより良い活動につなげたい考えです。

もちろん当団体の理念から言えば、例え期中に目標を達成したところで「これで終わり」となるはずもなく、全力で救命活動を行うことに変わりはありません。

支援者の皆様のご理解と引き続きの応援をよろしく願いいたします。

なお、保護状況が流動的なため、犬猫別の目標は設定せず、合計で 1,000 頭とします。ただし体調管理等のノウハウが違うため、飼育指標目標は犬猫別に設けました。

目標	受入数	譲渡数 (うち成犬・成猫)	滞在日数	死亡率
犬	-	-	30 日以下	5%以下
猫	-	-	60 日以下	10%以下
合計	-	1,000 頭 (100 頭・50 頭)		

<人材教育・人材活用の強化について>

当団体が活動のステップアップを目指す中で、大きな課題となっているのが人材の確保です。保護活動の基盤である飼育管理は、動物系の専門学校を卒業した若いスタッフを中心に、その献身によって成り立ってきましたが、こうして活躍するスタッフはまるでアスリートと同じでピークが短く、どんなに長くても20代後半になれば体力的な問題や将来への不安から、「卒業していく」というのが現状です。

加えて、それぞれの部門で「一番仕事ができる人に多くが集中している」のが現実で、そのスタッフが辞めれば飼育能力も大きく後退せざるを得ず、一からやり直しということが起きています。もちろんマニュアル作りやノウハウの一般化なども試みていますが、飼育管理の特に応用部分は経験値によるところも大きく、一人の人材が育つのに一定の時間を要します。

今期の譲渡目標の設定は、ノウハウを持ったスタッフが「自分のコピーを作る」のに十分な時間を割けるようにするためでもあります。そうして全体の底上げをすることで、結果としてより多くの命を救えるものと考えます。

恐らくこうした問題はどの組織でも起きていること、そして先人たちも悩み、だからこそ一定の答えも出ている問題であるとも考えています。より良い解決方法をより早く見つけるためにも、既存の組織論や研修なども取り入れて人材活用を強化します。

<譲度が困難な成犬・成猫の対策について>

犬

ここ数年の大きな課題の一つですが、譲度が難しい犬を保護する機会が増え続けています。主な原因は、全国的に犬の殺処分数が減っている中、比較的譲度が簡単な子犬の絶対数も減っていることです。もちろん殺処分の減少自体は良いことですが、保護した子を1日でも早く譲渡して、飼い主さんにお任せすることで次の子を助ける、という活動モデルを続けることが難しくなっています。

特に当団体が保護する雑種の犬たちは野犬の子であることも多いのですが、野犬のまま一定の期間を過ぎると将来人間に慣れることが極端に難しくなる傾向があり、譲度の難しさに拍車をかけています。これまでも課題として認識していましたが、個々の担当者の努力に任せるままだったのが現状です。今後は団体として成犬対策に本格的に取り組んで参ります。

具体的な対策の一つは人慣れやしつけをしてご家庭で暮らすのに適した子になってもらうことです
が、こうした訓練に近道は無く、とにかく時間をかけて取り組む必要があります。
また、どうしても人慣れが難しい野犬歴の長い子たちは無理に譲渡せず、施設で一生面倒を見る必要
が出てきます。そのための新しい施設づくりも進めていきます。

猫

犬に比べれば大人でも譲渡しやすい猫ですが、それでも感染症（エイズや白血病）キャリアであつたり、
障害を持っていると譲渡が困難なのが現実です。
一方で、こうしたハンディキャップをもった猫を引き取り、愛情をもって共に幸せに暮らしている方
も多くいますので、そうした事例などを集め、情報提供することで、引き取りを考えてくださる方の
分母を増やす試みを実施します。

<犬のマイクロチップ全頭導入について>

全頭導入から2年が経過しノウハウも構築できました。しかし世間では未だマイクロチップに対する
誤解があつたり、挿入しただけで正しい登録がなされず有効に機能していない例が見られます。
これまでの知見を当団体からも発信することで、正しい活用方法を普及したい考えです。

<外来不妊手術について>

本年度も保護活動をする方の力になるため、年間100件の外来不妊手術実施を目標とします。

<新たな施設の開設について>

前述の通り、譲渡が難しい犬猫を保護するためには十分な広さを持った施設が必要です。
現状の保護施設は物理的に限界が近づいており、今後の活動のためにも新たな施設開設の準備を進め
て参ります。

以上が2019年度の事業計画です。

これからも皆様のご支援・ご声援をよろしくお願ひいたします。

NPO 法人犬と猫のためのライフポート
理事長 稲葉友治